

「しん ぶ じょう みやく けっ せん しょう深部静脈血栓症」および 「はい そく せん しょう肺塞栓症」について



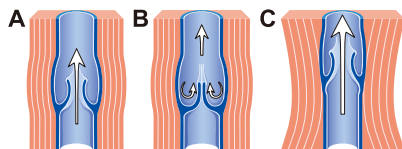
静脈の血流が悪くなることで、「深部静脈血栓症」を起こす可能性があります。さらには、「肺塞栓症」など取り返しのつかない事態につながる場合もあります。こうしたリスクを低減するため、静脈の血流を促すことが重要です。

しん ぶ じょうみやく けつ せん しょう 深部静脈血栓症とは？

血液は、動脈と静脈を通じて人間の体をめぐっていますが、静脈の血流がうっ滞（うっ血・停滞）すると、血管内に血液の塊「血栓」ができやすくなります。下肢の深い部分にある静脈に血栓ができる症状を「深部静脈血栓症」といい、身体に様々な影響を与えるようになります。

● 静脈の血流のうっ滞とは？

静脈では、歩行などの運動によって静脈周囲の骨格筋が収縮して血管が圧迫され、血液が押し上げられて血流を促進します。また、静脈の中には静脈弁があり、血液の逆流を防いでいます。しかし、血行が悪くなる状態（例えば、長期間の臥床や座りっぱなしなど脚を動かさず筋の収縮がない状態）が続くと、脚がむくむ、重くなるなどということが起こりやすくなります。このように、静脈流が滞っている状態を「うっ血」または静脈の血流の「うっ滞」といいます。



A・Bは、骨格筋が弛緩している状態。Cは、骨格筋が収縮して静脈を圧迫し、血流が促進されている状態。

深部静脈血栓症は、こんな時に起こりやすい

手術中や手術後の長期間の臥床や同じ姿勢で座りっぱなしなどで、下肢を動かさない状態が続き、血流のうっ滞が起こりやすい場合。

疾患や外傷など、何らかの原因から生じた生体反応で、血液が凝固しやすくなっている場合。

外傷など何らかの原因で、静脈血管の壁に傷がついてしまった場合。

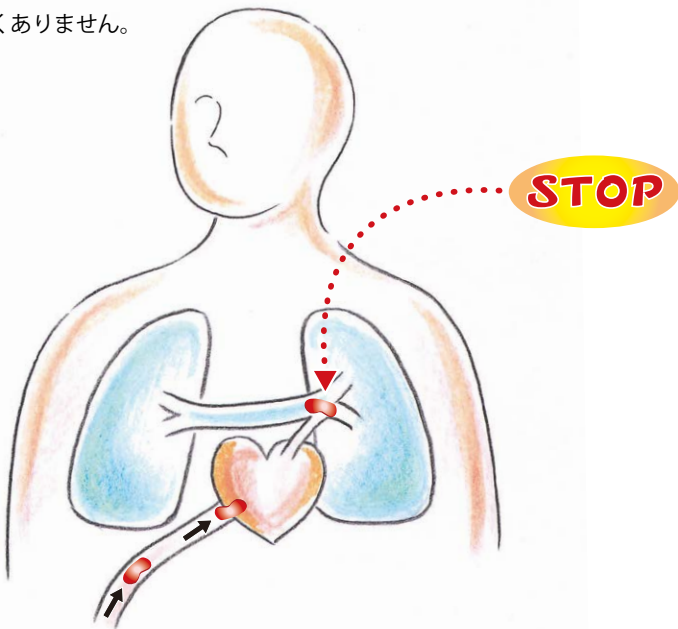
※また、妊娠中や出産時にも発生しやすいといわれています。



血栓ができてしまうと・・・

血栓が肺に達すると、^{はいそくせんしやう}肺塞栓症を引き起こす可能性があります。

深部静脈内にできた血栓が、離床時や体を動かし始めた時に血液の流れに乗って肺動脈まで達すると、肺動脈が詰まってしまう「肺塞栓症」を起こすことがあります。そのために入院期間が延長されたり、呼吸困難や心肺停止に陥ったりして、新たな治療が必要になることもあります。命に関わる場合も少なくありません。



静脈の血流を促進することは、血栓症やそれに伴う肺塞栓症の発生リスク低減に有効です。

血流の促進に効果的な方法をご紹介します。

旅行中など、身近に起こることも！

【エコノミークラス症候群／旅行者血栓症】

長時間、同じ姿勢で座ったままなど足を動かさない状態が続くと、血行が悪くなり、深部静脈に血栓ができることがあります。できた血栓は、席を立つなど足を動かした時に血流に乗って、肺動脈まで達し、肺塞栓症を引き起こす可能性があります。

飛行機に限らず、車や電車、劇場などでも、同様の危険性があるとされています。

下肢の静脈還流を受動的に促進する方法

入院時の血流の促進には、早期離床により体を動かすことが良いとされていますが、やむを得ず、長期間の安静が必要になる場合や体質的に血栓ができやすい場合は、下記の療法を用いることがあります。

薬物療法

薬を用いて血栓をできにくくする療法です。

血液が固まるのを防ぐ「抗凝固療法」^{こうぎょう こ りょうほう}と、血小板の機能を抑えて血栓の形成を抑える「抗血小板療法」^{こう けっしょうばんりょうほう}があります。

理学療法

器具や用具などを用いて血流を促す療法です。

●空気圧式マッサージ器などの器具

空気圧式マッサージ器などの器具を用いて、足の裏やふくらはぎなどを外部から断続的に圧迫して、受動的に静脈の血流を促す方法です。



●医療用弾性ストッキング

足首から脚の上部にいくにしたがって、圧迫力を段階的に変えることにより、下肢に適度な圧迫を加えて血流のうっ滞を起こりにくくするものです。



くわしくは、医師にご相談ください。

日本シグマックス株式会社

〒163-6033 東京都新宿区西新宿6-8-1

お客様窓口 TEL.0800-222-6122 (通話料無料)

受付時間: 9時～17時(平日) ※土日、祝祭日、年末年始を除く

<http://www.sigmax.co.jp/>